

第1回 就活川柳 入賞発表

主催 NPO法人CaPSAY(キャプセイ)

「コロナ感染拡大は就職活動にも大きな影響を与えました。活動を始めてすぐに説明会の中止、選考の中断、オンライン面接など予想していた就職活動とは全く様相が異なっていました。」

学校やキャリアオフィスが閉鎖となり、友達と会うこともできず、実家にも帰れない。こうした状況での就職活動は大変不安だと思えます。

そうした思いを「明るく、元気で、ポジティブに」「若者のセンスと少し風刺を聞かせて」「5・7・5」の17文字の川柳に込めてご応募いただきました。

選考の結果、左記の作品を最優秀賞、優秀賞、入選といたしました。

就活川柳実行委員会



最優秀賞

祈られた数だけ私強くなる

みなみ

この川柳からは、「就職試験に落ちまくる」という過酷な状況のなかで、それでも「転んでもタダでは起きないぞ」という強さが伝わりました。何度も悔しく悲しい思いをしたはずですが、それでも一筋の光を見出そうとする姿に胸打たれました。この視点があれば、人生は切り開いていけると伝えなくなる、そんな一句です。

優秀賞

パンプスをはかない就活わるくない

める

女性の就活生にとってパンプスは、それを履くことで気が引き締まり、自分に活を入れることもできるツールです(男性にとってのネクタイみたいなものでしょうか)。ところがコロナ禍の今年は就活の方法も変わり、多くの人たちが戸惑いを覚え、本調子がなかなか出せずにいます。そんななか、この状況に飲み込まれず、良さをえ見出そうとしている姿が目につかびました。応援したくなる一句です。

就活を やればやるほど 知る広さ

チエミ(1985)

この川柳は今年に限るものではないでしょう。実は多くの人が、就活をすることで自分が「井の中の蛙大海を知らず」だったと気付きます。それを認知したあとどうするか。そのことを謙虚に受けとめ、そこからまた進んでいこうとする作者。諦めない力は、明日を切り開く推進力にもなります。それが伝わる一句です。

入選

ウェブ面接 カメラの周りは 付箋だらけ ナンシー
最終の 面接前に 打ち切られ じゅん
WEB面接 チラチラ覗く 我が母よ さなしん
ウェブ面接 下半身は クールビズ モズク
面接後 フイードバック オヤジから 就活ラブ
10万が 交通費に消え 無い内定 もひ
先輩の 就活談が 役立たず なごむ
就活の悔しさ分け合うZOOM飲み みなみ
コロナきて 内定とマスク姿消す ポン太くん
感触が分からぬ面接マスク越し 庄野酢飯



第一回就活川柳にたくさんのご応募をいただきました。

みなさん、どうもありがとうございます。どの句からも、みなさんの就活に対する思いが伝わってきて、私自身胸が熱くなったりグツときたり怒りを覚えたり等、感情がさまざまに揺れ動きました。

川柳の魅力は人間の心の動きや置かれている状況などをこっけいみのある気のきいた言葉や、風刺のきいた言葉で表現するところにあります。その17文字に、大衆は共感を覚え、活力を得たりしていきます。

今回、審査するにあたり、川柳が持つ文学的力強さに加え、明るさを基準にいたしました。というのも、「コロナ禍で景気が急激に落ち込んだなかでの就活だからこそ、苦しい状況を明るくに変える諧謔的精神が必要だ」と思うからです。

選考委員 品川裕香・教育ジャーナリスト

募集期間 2020年7月から9月30日
応募総数 116作品
最終選考 2020年10月15日

キャブセイとは

新卒者が入社後3年以内に3割が退職しています。日本では初職の持つ意味は重く、転職や再チャレンジに対して寛容ではありません。せっかく新卒で入社しても「ブラック企業だった」「人間関係で悩んだ」などの理由で退職しています。インターネットの情報とマニュアル本に依存した就活はミスマッチの一因です。「自分らしく生きたい」「自分らしく働きたい」。私達は若者の希望する進路の実現のために様々な支援をしています。



(CaPSAY QRコード)



特定非営利活動法人CaPSAY
理事長 五十川 進